

## 令和5年度第3回広島県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和6年3月14日（木） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 広島YMCA国際文化センター本館 406号室（広島市中区八丁堀7-11）
- 3 議 案 第1号議案：第3期県営林中期管理経営計画（令和6～10年度）について  
第2号議案：令和6年度県営林年度実施計画について  
第1号議案及び第2号議案について審議の結果、原案のとおり承認された。
- 4 委員からの主な質問・意見（○質問 ●回答 ◎意見）

### 第1号議案：第3期県営林中期管理経営計画（令和6～10年度）について

- 第3期に解決すべき課題である「事業地の確保」について、県として重点的に取り組むのはどの点か。
- 森林の現況把握が最重要と考える。効率的に現況調査を進めるために調査事項を整理するとともに、ドローンなど先進技術を活用してスピードアップを図る。  
森林状況を把握できれば、土地所有者交渉も早くからアプローチでき、併せて事業体の早期確保やアクセスなど施業条件の改善にもつながる。
- 第3期の計画では5年間の施業必要量を示した上で毎年の事業量を示しているが、その後の展開としては、第4期に向けて徐々に主伐を増やしていく計画であると理解してよいか。
- 現在は利用間伐期であり、10年後の第4期が終了する頃から主伐を増やしていくイメージを持っている。そのために、今後10年は主伐の候補地となる利用間伐をしっかり進める。
- 「県民理解の促進」に向けて、具体的にどのように取り組むのか。
- 県営林事業の経営状況（単年度収支がプラスになっていること）などを議会ひいては県民にしっかりと示していく。また、J-クレジットについても新たなプロジェクトに取り組む予定であり、その発信方法については今後検討していきたい。

### 第2号議案：令和6年度県営林年度実施計画について

- 令和5年度の県営林事業の実績見込では利用間伐の達成率が低い、背景や今後の改善策はあるか。
- 事業量が減少した主な理由は林業事業体の確保が滞ったことである。実施できなかった事業地は来年度にスライドして、早期に事業体に働きかけて取り組んでいく。  
併せて、令和6年度に限らず、新たな事業地探しを進めて、事業体が翌年の仕事を決める前に働きかけるよう努める。
- 令和5年度の木材販売状況では、4m材より3m材の方が2割ほど高かったという結果だが、工夫した点などはあるか。
- 4m材の方が3m材より価格が安定しているため、基本的に採材は4mとしている。令和5年度は秋から3m材の値段が上がり、その時期に出した材が高く売れた結果であると考えている。
- ◎ 物価上昇などによるコストの増加が不安要因と考える。令和6年度は色々とコストアップした初年度であり、今後の動向を占う上で重要である。
- 物流関係について、大きな影響は出ているか。
- 県営林事業では木材の長距離運搬が少なく、物流コスト上昇などの影響は大きくない。県内製材工場の増産体制や新工場の竣工が見込まれていることを踏まえ、県内の近い場所に材を出していく取組を進めたい。
- ◎ 立木販売の実績報告の際は、表中に事業地の特徴（奥地にある、路網密度が高いなど）を加筆してもらえると、販売結果の背景が読み取りやすい。
- 次回から加筆してお示しする。